Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 2020第24号
2020年（令和二年） 12月18日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

12/3~12/9のNYMEX・WTI先物市場は、45.42～46.26ドルの範囲で推移した。

12月10日は、米国食品医薬品局（FDA）がファイザー社製新型コロナワクチンの緊急使用を承認、感染収束の期待感が高まり4営業日ぶりに大幅に反発した。1月限の終値は前日比1.26ドル高の46.78ドル。中心限月の終値として、9か月ぶりの高値を記録した。

週末11日は、ニューヨーク州のクオモ知事が、感染再拡大を受けて、市内飲食店の店内飲食禁止を発表、景気悪化懸念が再燃し、反落した。前日の高値による利食い売りもあった。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比12基増の258基と3週連続の増加となった。1月限の終値は前日比0.21ドル安の46.57ドル。

週明け14日は、米国で新型コロナワクチンの接種が開始、感染収束の期待が高まり、また、サウジのジェッダ港でシンガポール籍タンカーが爆発、サウジはイランに近いイエメンの反体制派フーシによるテロと主張し、緊張が高まり、反発した。1月限終値は前週末比0.42ドル高の46.99ドル。

15日は、前日から接種が開始されたファイザーに続き、今週内に米モデルナ社製のワクチンの使用承認が予定されるなど、感染の早期収束への期待、また、米国の追加経済対策の早期策定への議会の動きから、続伸した。この日発表の国際エネルギー機関（IEA）月報は2020～21年の世界石油需要見通しをジェット燃料を中心に下方修正したが、大きな影響はなかった模様。1月限の終値は前日比0.63ドル高の47.62ドル。

16日は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比310万バレル減と市場予測を上回る取り崩しになったことで、3日続伸した。ただ、朝方発表の経済指標が軟調であったことが上値を抑えた。1月限の終値は前日比0.20ドル高の47.82ドル。

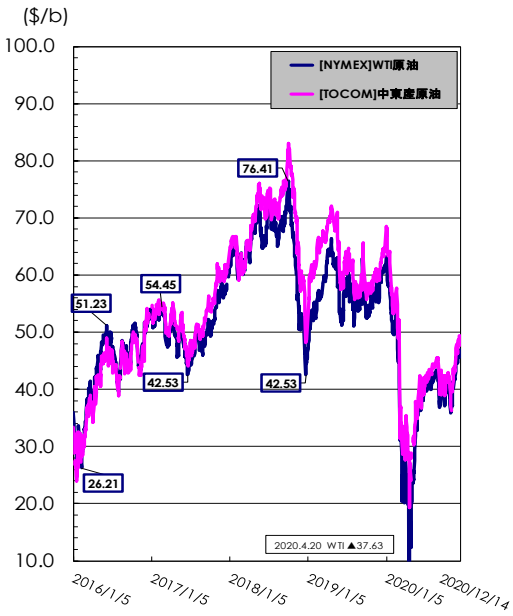
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（2月渡し）は12月3日～9日の間47.00～48.20ドルの範囲で推移した。12月10日48.60ドル、11日49.80ドル、14日50.10ドル、15日50.00ドル、16日50.60ドルと推移した。

為替は12月3日～9日の間103.83～104.49円の範囲で推移した。12月10日104.28円、11日104.01円、14日104.04円、15日104.12円、16日103.73円で推移した。

財務省が12月16日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格は、27,617円/klで、前旬比77円安、ドル建て41.97ドルで前旬比0.18ドル安、為替レートは1ドル/104.60円。また、同日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、11月月間の原油輸入平均CIF価格は、27,834円/klで、前月比1,703円安、ドル建て42.27ドルで前月比2.24ドル安、為替レートは1ドル/104.68円。

そのような中で、12月14日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値上がり、軽油も同0.5円の値上がり、灯油は6円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油も4週連続の値上がりだった。この週（12月第2週）の原油コストは値上がり、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比1.0円の引き上げとなった。

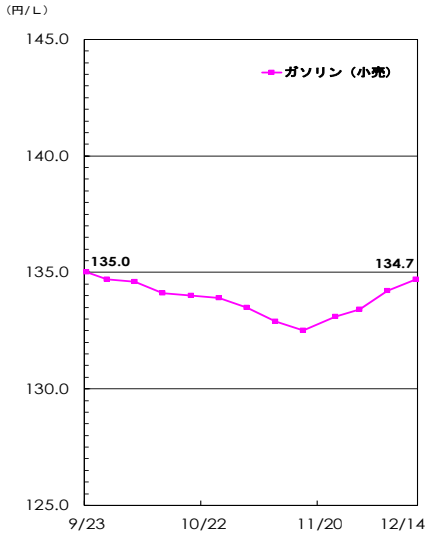
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	12/6 ~ 12/12	3,080	▲ 186	▼ –
	トッパー稼働率	（%）	〃	80.0	▲ 4.8	▼ –
	原油在庫量	（千kl）	12/12	10,906	▼ -502	▲ –
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	12/14	49.40	▲ 1.31	▼ -14.0
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	12/14	46.99	▲ 1.23	▼ -13.2
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	11月下旬	41.97	▼ -0.18	▼ -22.96
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	27,617	▼ -77	▼ -16,811
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	104.60	▼ -0.13	▲ 4.18
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	12/14	105.04	▲ 0.04	▲ 5.39



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/6 ～ 12/12	826	▼ -90	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	832	▼ -79	▼ –
	輸出		〃	16	▲ 16	▼ –
	在庫		12/12	1,976	▼ -22	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/8 ～ 12/14	45.8	▲ 0.2	▼ -14.1
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/8 ～ 12/14	43.0	▲ 0.5	▼ -14.3
		(TOCOM/中部)	12/14	45.0	➡ 0.0	▼ -15.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/14	134.7	▲ 0.5	▼ -13.2

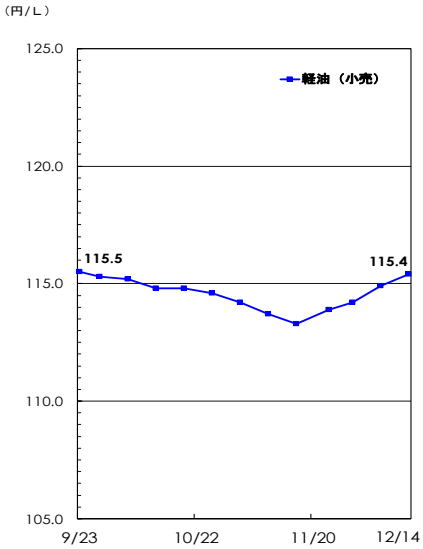
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

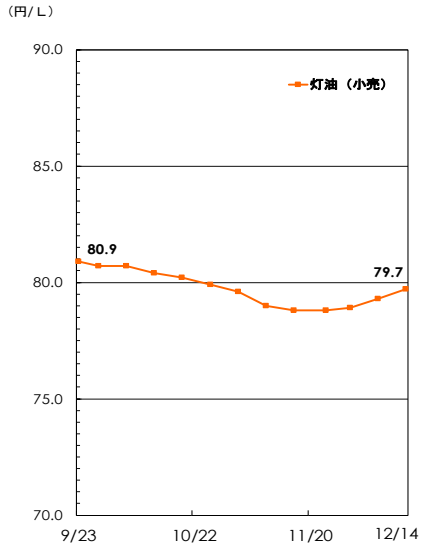
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/6 ～ 12/12	650	▲ 1	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	620	▼ -28	▼ –
	輸出		〃	52	▲ 26	▼ –
	在庫		12/12	1,577	▼ -21	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/8 ～ 12/14	48.5	▲ 0.4	▼ -14.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/8 ～ 12/14	49.7	▲ 0.6	▼ -15.3
		(TOCOM/中部)	12/14	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/14	115.4	▲ 0.5	▼ -12.9

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/6 ～ 12/12	454	▲ 83	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	477	▲ 109	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		12/12	2,903	▼ -24	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/8 ～ 12/14	47.6	▲ 0.2	▼ -15.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/8 ～ 12/14	46.2	▲ 0.7	▼ -15.6
		(TOCOM/中部)	12/14	47.5	➡ 0.0	▼ -16.6
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/14	79.7	▲ 0.4	▼ -12.4



■ 関連情報

1　海外/原油

12月16日のNYMEXのWTI先物原油は、3日続伸した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比310万バレル減と市場予測（同190万バレル減）を上回る取り崩しになり、ガソリン・中間留分在庫も予想を下回る積み増しとなった。ただ、前日夕の米国石油協会（API）の原油在庫速報が積み増しになったこと、朝方発表の11月の米国小売売上高が前月比1.1%減と感染再拡大で消費の弱さが懸念されたことが、上値を抑えた。1月限の終値は前日比0.20ドル高の47.82ドル、2月限の終値は同0.22ドル高の48.00ドル。

EIAによると、12月14日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.2セント値上がりの1ガロン2.158ドル（59.8円/㍑）、ディーゼルは同3.3セント値上がりの2.559ドル（70.9円/㍑）となった。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは6週連続の値上がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2020年12月6日～12月12日に休止したトッパー能力は24.9万バレル/日で、前週に対して10.9万バレル/日減少した（全処理能力は345.8万バレル/日）。

原油処理量は308.0万klと、前週に比べ18.6万kl増加。前年に対しては38.8万klの減少。トッパー稼働率は80.0%と前週に対して4.8ポイントの増加、前年に対しては8.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.9%減、ジェット/12.9%減、灯油/22.3%増、軽油/0.2%増、A重油/18.1%減、C重油/25.6%減。今週のC重油の輸入は0.4万kl（前週比0.4万kl増）。軽油の輸出は5.2万kl（前週比2.6万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は前週比でガソリン、軽油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は83.2万kl（対前週8.7%減）と3週振りで減少した。ジェット13.4万kl（対前週31.8%増）、灯油47.7万kl（対前週29.6%増）、軽油62.0万kl（対前週4.3%減）、A重油22.3万kl（対前週5.4%増）、C重油10.3万kl（対前週20.7%減）。

（単位：千KL）

	今週 (12/6 ~ 12/12)	前週 (11/29 ~ 12/5)	前週比	
ガソリン	832	911	▼ -79	(-9%)
ジェット燃料	134	102	▲ 32	(31%)
灯油	477	368	▲ 109	(30%)
軽油	620	648	▼ -28	(-4%)
A重油	223	212	▲ 11	(5%)
C重油	103	130	▼ -27	(-21%)
合　計	2,389	2,371	▲ 18	(1%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

12月12日時点の在庫は、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは197.6万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては43.3万kl多い。

灯油は290.3万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては45.0万kl多い。

軽油は157.7万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては13.5万kl多い。

A重油は80.1万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては13.2万kl多い。

C重油は196.9万kl、前週差7.0万kl増。前年に対しては2.7万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (12/12)	前週 (12/5)	前週比	
ガソリン	1,976	1,998	▼ -22	(-1%)
ジェット燃料	717	783	▼ -66	(-8%)
灯油	2,903	2,927	▼ -24	(-1%)
軽油	1,577	1,598	▼ -21	(-1%)
A重油	801	802	▼ -1	(-0%)
C重油	1,969	1,899	▲ 70	(4%)
合　計	9,943	10,007	▼ -64	(-0.6%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

12月8日～14日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.0円の引き上げとなった。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

12月8日～14日の製品スポット市況は、12月1日～7日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近（12/8～12/14）の陸上スポット価格平均値（千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格）は、前週（12/1～12/7）比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。直近（12/8～12/14）において、ガソリンは99円台でわずかに値上がり、灯油は47円台でわずかに値上がり、軽油は48円台でわずかに値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近（12/8～12/14）に、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.8円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間（12/8～12/14）に、ガソリンは101円台でわずかに値上がり、灯油は45～46円台で値下がり後ほぼ値を戻し、軽油は49～50円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。先物価格は、同期間（12/8～12/14）に、ガソリン96～97円台で値上がり、灯油45～46円台で値上がり、軽油49～50円台で大きく値上がりして推移した。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(12/8 ~ 12/14)	前週　(12/1 ~ 12/7)	前週比
スポット価格	レギュラー	45.8	45.6	▲ 0.2
	灯油	47.6	47.4	▲ 0.2
	軽油	48.5	48.1	▲ 0.4

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(12/8 ~ 12/14)	前週　(12/1 ~ 12/7)	前週比
先物価格	レギュラー	43.0	42.5	▲ 0.5
	灯油	46.2	45.5	▲ 0.7
	軽油	49.7	49.1	▲ 0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値　（12/8～12/14実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.3
灯油	▲ 0.2	▲ 0.7	▲ 0.4
軽油	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.5
A重油	▲ 0.5		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

12月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円高の134.7円、軽油も同0.5円高の115.4円、灯油は18㍑ベースで同6円高の1,434円（1㍑ベースでは79.7円同0.4円高）。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油も4週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは38都道府県、横ばいは5県、値下がりが4県となった。全国最安値は127.7円の徳島県（前週比1.3円高）、その次に安かったのは128.5円の宮城県（同0.4円高）、最高値は143.4円の長崎県（同0.2円高）だった。最も値上がりしたのは、同2.2円高の埼玉県（130.2円）、横ばいは愛媛県等5県、最も値下がりしたのは、同0.7円安の愛知県（134.3円）だった。

今週（12月8日～14日）は、指標原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週（12月17日～23日）適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.0円の引き上げとなった。次回調査時（12月21日）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

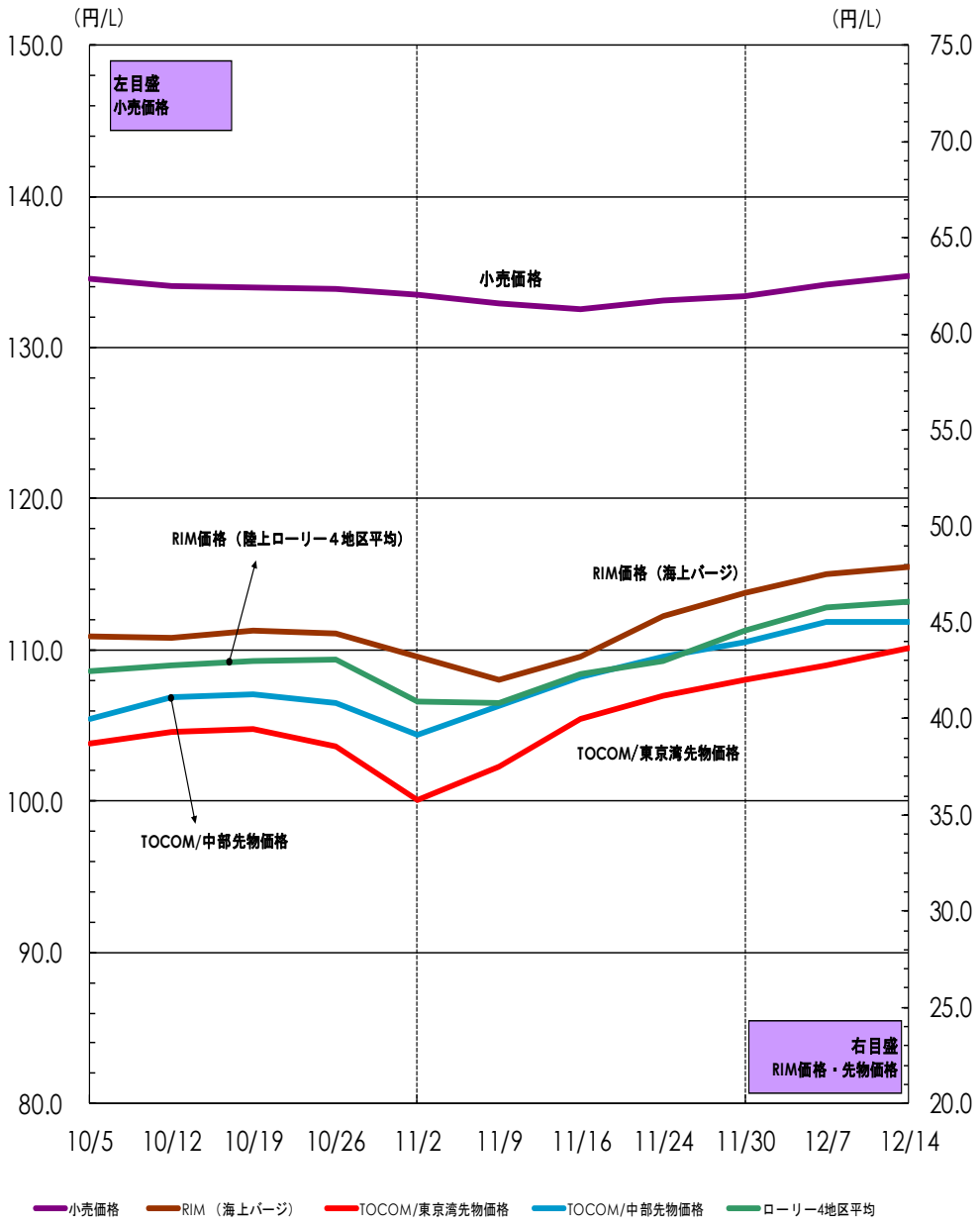
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(12/14)	前週　(12/7)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	134.7	134.2	▲ 0.5	08/8/4	185.1
	灯油	79.7	79.3	▲ 0.4	08/8/11	132.1
	軽油	115.4	114.9	▲ 0.5	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/10/5　～　2020/12/14)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2020第25号）の公表は、12/25（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和2年3月末現在）は、8月26日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。